

地中から届いた歴史の声

出土品が語る地域の記憶



埋蔵文化財は地中に眠っている遺跡などの文化財のこと
で、埋蔵文化財が存在するとして知られている土地を「周
知の埋蔵文化財包蔵地」といいます。指定されている土地
は全国で約 46 万カ所あり、市内でもそんな場所が 45 カ所
あります。その中の一つ、金子遺跡のエリア内にある金子
小学校で6～9月、校舎建て替えに合わせ、発掘調査を行
いました。掘り起こされた土器などから、新居浜の歴史の
一端が浮かび上がってきました。



市政広報番組「DonDon にいはま」でも
発掘の様子を紹介しています。

発掘調査で記録を残す

埋蔵文化財は地域の歴史を語る上で欠くことの
できない貴重な財産であり、一度破壊されてしま
うと二度と復元ができません。工事などでやむを
得ず遺跡を現状のまま保存できな
い場合には、事前に発掘調査を行
って、遺跡の写真や図面などの記
録を残し、その価値を後世に伝え
ていかなければなりません。



発掘調査って何だろう

発掘調査は、大きく分けて、「現地で掘る作業」と「部屋で調べる整理作業」の2つのステップがあります。

STEP 1

現地で掘る作業（発掘作業）

まずは、昔の遺跡がある場所へ行って、土の中に眠っているものを探し出します。

①上の土をとる



遺跡の上に積み重なった土を取り除く。

②丁寧に削って探す



土の色や硬さの違いを見つけ、人の手で少しずつ削る。

③昔の建物や穴を掘る



土の質や色に注意しながら慎重に掘る。

④記録をとる



どこから、どんな遺物が出たのか、写真や図面に残す。

⑤遺物を洗って名前を書く

水できれいに洗って、一つ一つに遺跡名や出土地点などを書く。

どうやって見つけるの？

昔の人が掘った穴や建物があつた場所は、周りの土と色や硬さが少し違います。そこを削りながら探すよ！



ゴシゴシ洗っちゃダメ！

土器には模様や装飾がある場合も。歯ブラシや柔らかい刷毛を使い、傷つけないようにやさしく洗います。



STEP 2

部屋で調べる整理作業

掘り出した土器や道具はバラバラになっていることも多いので、持ち帰ってパズルのように組み立てます。

①グループ分け（分類）



時代や種類、用途ごとに分類する。

②パズルのように組み立て（接合）



バラバラになっている破片をくっつける。

③足りない場所をつくる（復元）



欠けている部分を石こうで埋め、元の形にする。

④遺物を測って図面にする・写真撮影



図面をつくる。文様なども正確に！
カメラで写真を撮る。

⑤報告書にする

調べたことをまとめ、報告書を作成。出来上がった報告書は、図書館や研究機関に送る。

グループ分けが大事！

時代・形態・用途別に分類します。この作業を誤ると次の接合がうまくいかなくなります！



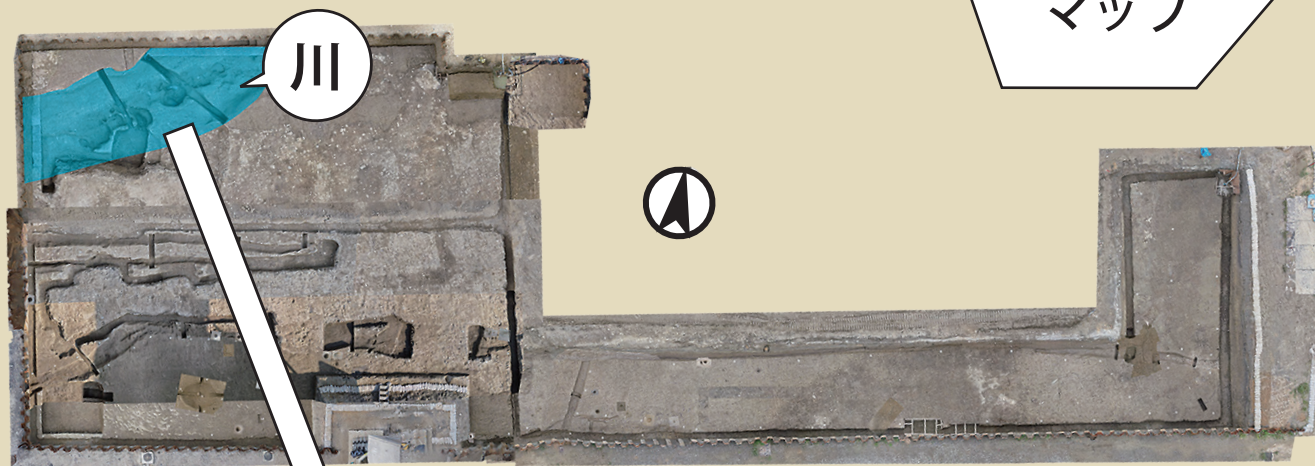
白い部分に色をぬる！

足りない部分を白い石こうで直した後、本物の土器と似た色を塗ります。ただし、ここは後から直した場所だと分かるように、少しだけ違いを残します。

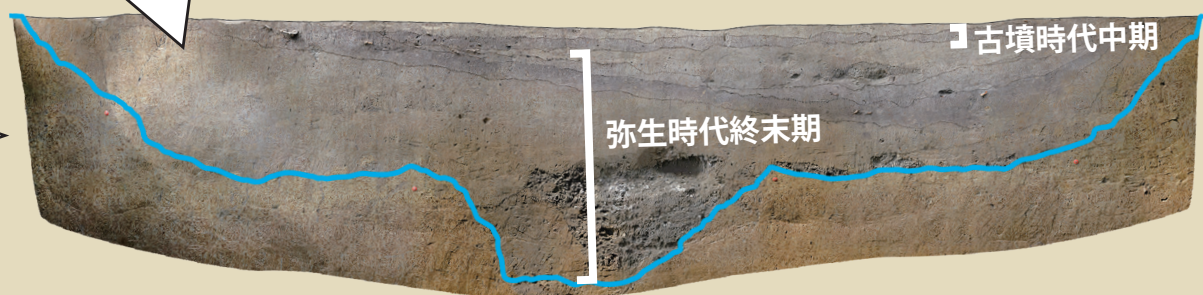


4カ月にわたり、金子小学校内の校舎跡約1,318㎡を発掘しました。

発掘調査 マップ



川の断面



発掘された 遺物

弥生時代終末期の甕^{かめ}
煮炊きに使っていました



弥生時代終末期の壺^{つぼ}
水などを入れていました



弥生時代に大きな集落

現地で発掘調査にあたった県埋蔵文化財センター調査第二課長の乗松真也さん（52）に聞きました。

約 1,800 年前の弥生時代の土器がまとまって出てきました。これまでの調査で、金栄小学校や市役所南側などでも同時期の土器が出土されたことから、**弥生時代終末期には市街地に川が流れており、その周囲で当時の人たちが生活していた**と考えられます。土器が完全な形に近い状態に出ることはあまりないんですが、ここではたくさん出てきました。川の上流で誰かが捨てた土器が流れてくると、摩滅するなどしてボロボロになってしまいます。それがないので、すぐ側にいた人が何らかの目的で捨てたか置いたかしたものだと思うんです。近くに**大きな集落があったんじゃないか**と思います。

約 3,000 年前の縄文土器や溝も発見されました。ということはその段階で**人が十分住める状態だった**ってことなんですね。このあたりは、縄文時代にあまり人が住んでいなかったんじゃないかと思っていたので意外でした。

島根、鳥取、岡山、香川で作った土器もあります。今も海は近いですが、当時はもっと近くにあったのではないかと思います。**海を渡って、物や人、情報がすごく入ってきやすい場所だったんじゃないか**と考えています。

発掘調査の意義は、地域の昔のこと、特に人間の社会が分かるということです。もっと地域に寄せていうと、新居浜がなぜ今の「新居浜市」としてあるのか、そのルーツが分かります。それが地域の特色やアイデンティティーにつながる可能性もあるのかなと思います。



金子キッズ、大興奮！

金子小6年生が7月、発掘作業を見学しました。子どもたちは、めったに見ることのできない発掘現場に興味津々。学び舎の下から掘り出された土器の破片に触れ、太古の暮らしに思いをはせました。



千葉 博義くん

「身近なところに、こんなすごい遺跡があったり、土器が見つかったりしてドキドキした！オレンジや茶色の土器があってカッコよかった」

溝井 佑菜さん

「土器の形がそのまま残っているのがびっくりした。まさか金子小の下にあったなんて、学校の自慢になります！」

渡邊 陽仁くん

「土器が見られて、それがどんな時代のものか知ることができて良かった。いつも通っていた校舎の下にこんな遺跡があってびっくり！」